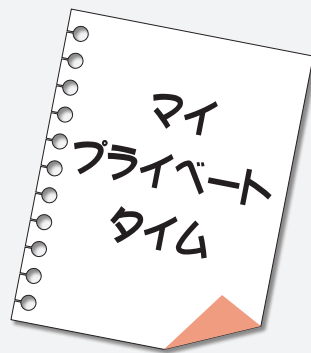


# 新たな出発点を迎え

ゆふ市長(大分県) **首藤奉文**  
*Houbun Shuto*



## 『為せば成る』

私の祖父、両親は教師でした。そのせいで子どものころ自分もなんとなく教師になるのかなと思っていました。でも本気でそう思ったのは中学の時でした。

中学バレーボール部員は全員農家の子どもばかり、それで農繁期のほとんどは練習はできませんでした。それでも力を合わせて頑張りました。3年間の集大成は県大会出場の予選会です。残念ながら決勝で敗れてしまい夢の県大会出場はできませんでした。優勝は間違いないと言われ、自分たちもその気になっていましたので大変な



幻想的な光景で出迎えてくれる「由布川峡谷」

シヨックでした。みんなと流した悔し涙が乾いたとき、自分は先生になって県大会に出場できるチームをつくりたい」とそのとき思いました。大学を卒業して田舎の中学校に赴任しました。早速バレー部の監督として県大会出場を目指すことになり、石ころが出てくるコートを生徒と一緒に整備しながらの練習です。予選会での最大の強敵チームにはここ数年勝つことがなく、戦う前から気持ちで既に負けていました。そこで「相手の倍の練習をすれば大会で必ず勝てる」「為せば成る」と若さに任せ話して聞かせました。それ以来泥まみれになりながら『為せば成る』の言葉を心に刻み込んでの練習です。そうして優勝できた時は生徒と共に最高の喜びと達成感に浸り感動の涙を流しました。思い出すと今でも胸が熱くなります。

それからは県で優勝できるチームが育ち、さらに全国でもベスト4に成れる力をつけることができました。これもすべて母がいつも教えてくれた『為せば成る』の言葉のおかげだと思っています。そして、これが市政を担う原点なのです。

## 「土を耕す者は滅びず」

私が54歳のとき(当時県教委教職員課で勤務していましたが)、町内の方たちから庄内町長選に出馬するようにと強く推されました。そんな器でもないし力もない、



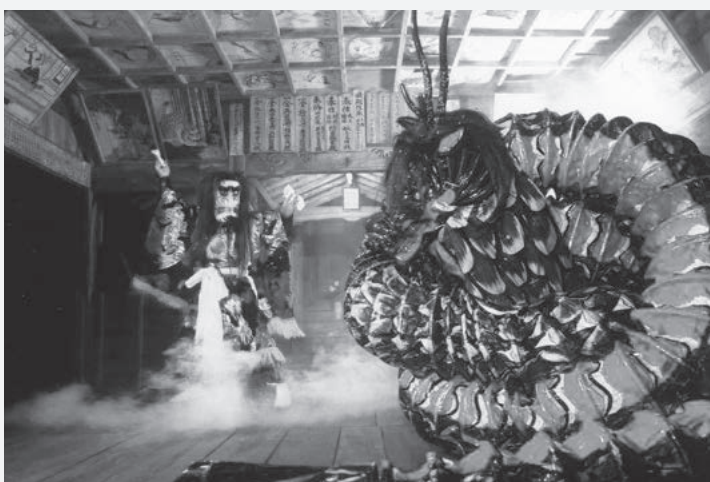
四季を通じて綺麗な姿を楽しむことができる「由布岳」

ましてや、もしもの時には大変なことになるからと強くお断りしたのですが、「はい」と言うまでは毎晩お願いに来ます」。夜中の12時過ぎまで7日間続きました。こんな出馬の動機ではいけないのでしょうか、熱意に根負けしたのと疲れから、「そんなにおっしゃるなら精一杯頑張らせていただきます」と申し上げ夜の訪問を終わっていただきました。しょうがない、決めた以上は全力でやろうと決意しました。町長に当選して6年、そして今は合併で誕生した由布市の市長10年目です。

首長は皆さん誰も同じだと思いますが、ほとんど休日がありません。私の趣味は野菜づくりですが、この趣味を実行するには

朝しかありません。春から秋までは夜が明けたら畑に出ます。幸い畑が家の前ですからすぐに仕事ができます。春、畜産農家の方から堆肥をいただき土作りを行います。キュウリ、ナス、ホウレンソウ、大根、レタス、ミニトマト、ピーマン、ネギ、しょうが、セロリ、ブロッコリー、パセリなどわが家の野菜はほぼ自給自足です。

ある方から「土を愛する者は汚れず」「土を耕す者は滅びず」「土に立つ者は倒れず」と書かれた達筆の額をいただきました。これが自分にとって最高の宝物となりました。この言葉をつぶやきながら朝から野菜づくりに精を出しています。このひと時の



ダイナミックでテンポの良い舞を特徴とする「庄内神楽」

おかげで心身ともに癒やされています。

## 「発展の年を迎え」

さて、本市は、人口約3万6000人のまちです。別名・豊後富士と呼ばれます秀峰・由布岳や紅葉の黒岳、日本名水百選に選ばれた男池湧水群、大分百景の一つであります由布川峡谷など美しく雄大な自然に囲まれています。また、全国第2位の温泉湧出量を誇る由布院温泉や古くより湯治場として栄えた湯平温泉、日本三大薬湯の一つとして特に皮膚疾患に効能があると言われます塚原温泉など、豊かな自然と豊富な温泉に恵まれたまちです。

郷土芸能につきましても盛んで、早いテンポと勇壮な舞を特徴とします「庄内神楽」と迫力ある「ゆふいん源流太鼓」の演奏は、多くの人々を魅了し虜にしています。

本年は、市制施行10周年とともに、JR久大本線の前進であります大湯鉄道開業100周年を迎えますことから「豊後大正ロマン街道・大湯鉄道物語100周年」と銘打ち、地域発展に向けた先人達の偉業を再評価し、地域の絆を深めていくための鉄道や駅を使ったさまざまな催しが企画されています。観光面におきましても、おんせん県おおいたデスティネーションキャンペーンが7月より本格的に展開されるなど本市にとって飛躍の年となっています。

この節目の年を由布市発展の契機ととら

え、住む人も訪れる人も癒やしの空間を共有できる、おもてなしの心あふれるまち。本市の魅力に磨きをかけ発信できるよう、行政の「観光施策（住んでよし）」と民間の「観光戦略（訪れてよし）」を連動させ、さらに協働できる観光推進組織設立に向け、もっか私の得意とする飲みニケーションを生かしながら取り組みを進めているところであります。

組織の設立にあたっては多くの課題も予想されますが、そこは私の原点であります『なぜ成る』の精神で乗り越え、趣味の野菜づくりのように立派な組織を育ててまいります。



地元幼稚園児とクルーズトレイン「ななつ星」をおもてなしする筆者（由布院駅にて）